

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はぎ )

事業所番号	0691500102		
法人名	有限会社HYOコーポレーション		
事業所名	グループホームすずな		
所在地	山形県長井市寺泉641番地		
自己評価作成日	平成30年10月23日	開設年月日	平成29年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたらしい生活に寄り添い、ともに歩んでいきます」の理念に添って、利用者の思いや願い、一人ひとりの生活スタイルを大切に支援しています。また、季節に合わせた行事を企画し、外出の機会を設け気分転換が出来るよう支援しています。行事だけでなく、日々の買い物や畑仕事等利用者に役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 11月 21日	評価結果決定日	平成 30年 12月 13日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

おいしい食事やその手伝い、入浴の楽しみ、外出して自然や人と触れ合う喜び、自立へ向けてのトイレでの排泄、そんな利用者の日常にいつも職員が寄り添い支援しています。笑顔で接することで笑顔が生まれ、出来なかったことが出来るようになり、利用者一人ひとりが好きなこと得意なことを続けながらその人らしい生活を送っています。地域とのつきあいを大切に協力関係を築き、また運営推進会議ではさまざまな意見やアドバイスを得てサービスの向上に繋げています。毎日のケアを振り返り、理念のもと利用者が安全に安心して暮らせるよう支援に取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしい生活に寄り添い、ともに歩んでいきます」の理念を玄関に掲げ、職員が出勤時必ず確認してから業務にあたるようにしている。月1回の部署会議の際は職員同士確認しあい共有するようにしている。	理念を常に念頭に置き利用者がこれまでの人生で楽しかったこと、うれしかったこと、得意としてきたことを職員全員で支え、自分らしい生活をこれからも続けられるよう取り組んでいる。日頃より職員間で気づきを話し合いケアを振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域民として隣組にも加入し、回覧板で地域の情報を得たり、草刈りや集会に参加し交流を図っている。事業所の行事(敬老会・芋煮会)にも参加して頂けるよう声掛けも行っている。	開設以来地区行事に積極的に参加し交流を図っている。また事業所行事に参加を呼びかけ利用者の暮らしぶりを見てもらい徐々にではあるが「グループホームすずな」の取り組み、認知症について地域からの理解が深まってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事に参加して頂きながら、事業所の利用者の雰囲気や取組を紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、市役所担当者・連携施設・家族代表・地区長・民生委員に参加頂き、事業所の現況を報告したり、各出席者の方から情報を頂いたりしている。議事録を職員回覧し、会議の内容を周知してもらっている。	会議では事業所の現況や利用者状況の報告をした上で意見交換を行っている。メンバーの医師からは薬を飲めない方への対処方法、地区代表からは地域の情報提供や避難訓練での協力についてのアドバイスをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議を通じ、事業所の実情やサービスの取組を報告している。また、市の介護相談員に定期的に入って頂きサービスの向上に繋げる様協力関係を築いている。	運営推進会議に市担当者が出席し、また福祉あんしん課に出向き介護保険の情報や困難事例などについてアドバイスを受けながら意見交換している。2週間に1回介護相談員の訪問もありサービスの向上に取り組んでいる。	介護相談員が利用者から得た気づきや報告を積極的に聞き取り、サービスの向上につなげることを期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部・外部研修に参加し、身体拘束の知識を深めている。帰宅願望が強い方にも玄関の施錠はせずに、一緒に外に出てみる等の対応をし「その人らしい生活」が送れるよう努めている。職員間でも話し合いながらその時その時の状況に応じた対応をしている。先頃、指針を作成し、その周知を図っている。	法人全体で認知症ケアのあり方について学ぶなかで身体拘束に繋がる行為を排除している。声かけや見守りで安心して過ごせる環境づくりに取り組み、利用者は穏やかな雰囲気の中で暮らしている。また地域の協力を得てネットワーク作りを進め、万が一に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修会では事例を用いて、職員一人ひとりがケアの在り方を振り返れるようにしている。虐待防止委員会を立ち上げたり、職員同士声掛け合える環境作りに努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の研修会を開き、必要時にはいつでも活用できるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者や家族が不安なく利用できるよう説明を行ったうえで、署名・捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席頂いたり、面会の際に意見や要望を言える環境づくりに努めている。意見や要望を受けた職員は速やかに管理者・主任に報告し、各職員にも周知するようにしている。	毎月通院後の状況報告、季節毎のすずな便りや面会時に利用者の生活の様子や健康状態などを伝えながら意見を聞いている。火災避難訓練だけでなく地震対策もしてほしい、健康状態に変化ある時はすぐ連絡してほしいなどの要望があり運営改善に取り入れている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や部署会議で出た意見や提案を管理者会議で検討し反映するようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回のストレスチェックの実施や面談で職員の状況を確認している。各職員がやりがいや向上心が持てるよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修や職種や経験により外部研修への参加の声掛けをしケアの向上に努めている。研修会出席後には部署会議での報告や資料の回覧により職員全員に周知するようにしている。	法人の長井3事業所全体研修を毎月開催し認知症ケアの理解を深めてレベルアップを図り、特に新人育成には働きながらの個別研修を取り入れ代表者や先輩職員が指導している。年度始めに個人目標を立て、毎日日誌を書くことで更なるレベルアップに繋げている。	機会を捉えて個人目標の振り返りを行い、次のステップに進めるような取り組みに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	長井市グループホーム連絡協議会を発足したが、1回の開催のみとなっている。しかし、当事業所は開設間もない事業所の為、他のグループホームに相談したり、情報を頂いたりしながら関係づくりに努めている。長井市グループホーム連絡協議会の定期開催が課題である。	長井市グループホーム連絡協議会の活動が低迷しているため代表者・管理者のネットワークを活用し同業者との交流を図っている。開設間もないため情報交換を通して他事業所の取り組みを参考に運営・サービス向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人と面談し、本人の思いや不安を聞き取った他、家族・ケアマネからの情報をもとに職員間で情報共有し、安心できる環境作りをしている。入所後も本人の思いや不安が聞き出せるような声掛けを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族とも面談し、困っていること・不安なこと・要望等を伺い、安心して入所できるよう密に連絡を取りながら信頼関係を築けるようにしている。入所後も様子を報告し、家族も安心できるよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面談し、相談に乗ったうえで、管理者・ケアマネ・看護師等必要とする支援の方法を検討し入所に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事準備や掃除・洗濯といった家事全般を一緒に行い「ともに生活している」ということを意識しながら関係づくりをしている。時には人生経験豊かな利用者の方から指導頂くこともある。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族と疎遠にならないよう、都度報告している。通院も出来る限りご家族に付き添って頂き、健康状態や事業所内での様子を確認して頂けるよう声掛けしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活に関わられた方の面会や馴染みの店舗への買い物等を通じ、これまでの関係が途切れないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や相性を把握し、良好な関わり合いができるよう職員が間に入り話題の提供やその場の雰囲気づくりを大事にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を機に契約終了となっても、近況を常に把握し、家族が不安にならないよう連絡を取り、関係が途切れないようしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でちょっとした言動を見逃さないよう観察し、本人の思いや希望を汲取るように努力している。担当者は一対一での会話の時間を十分に取り、思いや意向を聞き職員全員で支援できるよう相談している。		ふだんの関わりの中で何気ない言葉や仕草から何が楽しみか、何を望んでいるのかを聞き汲み取ってケース記録に詳しく記入している。ケース記録をもとにユニット内で話し合い職員全員が共有して支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や暮らし方等の情報を本人・家族・ケアマネ等からもらい把握している。入居後もできるだけ大きな変化がなく生活できるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの記録をもとに、一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努めている。出来ることを見出し、出来ないところの介助をしながら生活して頂いている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当を決め、アセスメント・担当者会議への参加をすることで、職員が家族の思いや本人の思いを直接聞きだせる環境を作っている。担当者が直接意向を確認することで自らアイデアを出し、反映できるようにしている。変化があった場合には速やかに管理者・計画作成担当者に相談し、介護計画に反映できる体制を作っている。		その人の背景を知り、本人・家族等の気持ちや思いを大切に不安や事故の無い穏やかな生活をしてもらうことを大切に考えて介護計画を作成している。意向を確認しながら担当者を中心に健康状態・食事・排泄・活動等の状況変化について話し合い見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子やケアの実践内容を記入し、全職員が把握できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>今まで暮らしていた地域に出掛けたり、地域の行事に参加することによって、本人が安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前と同じ医療機関を受診し、馴染みの関係性を継続している。受診は家族にも協力を頂きながら、状況に応じて職員同行も行っている。職員が付き添った場合には、家族に報告し共有している。</p>	<p>定期受診は家族同行もあるが、遠方の家族も多く職員の通院介助が増えている。受診後の結果は家族等に電話で報告し共有を図っている。体調変化時は看護師・主治医と相談して迅速に対応し、服薬に関しては管理責任を明確にし、誤薬防止に努めている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が常勤している為、情報や気づきを毎日報告・相談しながら利用者の体調管理を行っている。介護職員は看護職員から病気についての指示を仰ぎ、適切な受診が出来るよう支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には事業所内での様子を報告し情報を共有している。病院関係者との連絡を密にとり、病状の把握をし早期に退院できるよう心掛けている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した場合における対応を説明し理解頂いている。重度化した場合には家族の意向を聞きながら主治医・介護職員・看護師との話し合いにおいて方向性を共有していくようにしたい。</p>	<p>家族等とは体調変化時や看取りについての話し合いをしているが、新人職員が多く対応に不安があるため、今後研修を積んで実施できるよう取り組みたいとしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、夜間特変時のマニュアルを掲示し、落ち着いて行動出来る様日々見直しをしている。事故発生時に備えた緊急連絡網にてスムーズな連絡が出来るような訓練も行っている。		/		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時には、日中帯・夜間帯の模擬訓練を実施し、利用者が安全に避難できるよう取り組んでいる。火災だけでなく地震や風水害時のマニュアルも作成し、職員全員が危機管理を持ち行動できるよう努めている。避難訓練は事業所内での開催であるため、今後は地域の方の協力も得ながら取り組んでいきたい。		総合避難訓練は消防署から毎回2名参加して実施し、講評でアドバイスを受けている。夜間想定訓練は利用者をベッドから起こして避難するまでを実際に行い、招集訓練も合わせ実施している。運営推進会議において地区長から地域の協力についての話が進められている。		今後は持出し品リストや備蓄について整備が図られるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな話をするときには声の大きさや場所に配慮している。排泄や入浴時には特に気を付け、不適切がないように努めている。		排泄や入浴時は声掛けに一番気を付けており、失敗時は周りに気づかれないように着替えに行くなど利用者の尊厳を大事にしている。方言であってもぞんざいにならないよう言葉遣いに配慮して支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせ、思いや希望を発信しやすい環境づくりを行っている。表現が難しい方には選択肢をいくつか作り自己決定ができる支援をしている。		/		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声掛けや対応をしている。体調や気分に合わせて、職員ペースではなく利用者ペースで対応するよう心掛けている。		/		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時には好きな衣服を選んでもらうよう支援している。季節に応じた衣服が着用できるよう、衣替え時には家族にも協力頂きながら対応している。外出時にはおしゃれして出掛けられるよう支援している。		/		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りメニューの日には食べたい物を組込むようにしている。買い物や盛付・片付け等それぞれが役割を持ち職員と一緒にやっている。当ホームの畑で野菜の収穫も手伝ってもらいながら季節を感じてもらおうよう努めている。		法人から副菜が届き、主食と味噌汁等はホームで手づくりしている。週一回は手作りメニューの日があり、買い出しや畑で採れた新鮮な野菜を使って利用者の好みを取り入れた献立で喜ばれている。利用者は食器拭きや配膳など出来ることに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で真真空調理システムでの安心・安全な食事を提供している。個々に合わせ偏食や禁食・刻み食等の対応も実施している。水分量は一日1000CC～1500CCを目途に摂取できるようにしている。水分摂取が好まない方にはゼリー等での摂取も促している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には口腔ケアを実施している。歯ブラシとコップは毎回消毒し衛生保持に努めている。夕食後には入れ歯洗浄している。自分で磨ける方でも確認しながら必要に応じては仕上げ磨きをしている。必要時には歯科医の受診も行い、アドバイスを頂いている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入することで排泄パターンを把握している。利用者のシグナルを見逃さないよう観察し、声掛け・誘導を行っている。		利用者一人ひとりの排泄パターンを理解し、早目の誘導を心掛け失敗をなくすよう取り組んでいる。意思表示のある方が多く布パンツの方もいる。夜間のみオムツ対応の方もいるが出来るだけトイレでの排泄で、気持ちよく過ごせる様に気配りしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表にて排便の有無を確認している。運動・食事・水分量に気を付けながら予防に努めている。便秘がちな方には寒天を使ったおやつ の提供や腹部マッサージを行い、薬に頼らないよう努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を実施しているが、状態に応じて清拭や回数調整も行っている。個々に合わせ一般浴と機械浴にて安全に入浴できるよう支援している。入浴に消極的な方には気分や体調に応じ声掛けをし入浴できるよう取り組んでいる。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じて自由に休息して頂いている、居室にテレビを持ち込み自由な時間を過ごされる方、出来るだけ一人になりたくない方等考慮し安心できる環境を作っている。日中の適度な運動と活動で昼夜逆転傾向にならないよう努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を整理し、職員全員が確認できるようにしている。服薬する際は必ず名前・日付を複数職員で確認し飲み込むまでの確認を行っている。通院後服薬に変化がある場合には症状の変化に危機感を持って」対応している。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味・嗜好の情報をもとに日々の活動を提供し、張り合いのある生活が送れるよう支援している。外食や地域の行事に出掛け気分転換を図っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分や体調を考慮しながら、当ホームの畑に行って野菜収穫をしたり、買い物に出掛けたりしている。家族面会時には家族と一緒に自宅や買い物に行けるよう支援している。季節に応じて花見や紅葉狩り等の機会を設けている。	ユニット毎に利用者の希望や気分に配慮して、ドライブや寿司外食などの外出の機会を設けて気分転換を図っている。買い物や理容室、散歩やホームの畑へ行くなど様々な個別外出で外の空気に触れ満足して貰えるよう取り組んでいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や必要な物の購入は預り金から購入している。職員と一緒に買い物に出掛けた際には支払いをしてもらうよう支援している。預り金は家族へ毎月報告し確認頂いている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には職員に声を掛けてもらい自由に電話を掛けて頂いている。年賀状や手紙のやりとりも自由出来るよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる壁飾りを利用者さんと一緒に作ったり、草花を摘んで飾ったりしながら季節感ある空間づくりに努めている。また、不快な音・臭いに気を付け心地良い環境の中で過ごせるような工夫をしている。	天井が高く清潔で広いリビングからは各居室が見渡せ、また利用者の身体状況に配慮した洗面台を設置している。テーブル席やこたつスペース、ソファコーナーと利用者一人ひとりの寛げる居場所づくりをしている。利用者手づくりの干し柿など季節が感じられる雰囲気気を大事にしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にもテレビを囲むようにソファを置き、足が伸ばせる量の空間を設けそれぞれが居心地良く過ごせるようになっている。施設内を自由に行き来が可能で、隣の棟にも自由に行けるようになっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真を自由に持参して頂き、本人が居心地のいい空間を作ってもらえるよう支援している。	各居室には洋服ダンス・エアコンが備え付けてあり、また家庭より持参した馴染みの物で安心して過ごせる様取り組んでいる。清掃は毎日利用者と一緒に行い清潔な住まいを目指している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、歩行器使用の方や車いす使用の方にも安全に移動できるようになっている。洗濯物をたたんだ後は一人ひとりのカゴに区分けし、利用者本人が片付けられるよう見守りや声掛けを行っている。			